



Consulado Geral do Japão
em Curitiba

令和元年度外務大臣表彰式の実施

9月27日、在クリチバ日本国総領事館は、令和元年度外務大臣表彰式をパラナ州マリンガ市内マリンガ文化体育協会において実施し、以下の功績により、3名が受章されましたのでお知らせ致します。

1 エリザベッチ・アケミ・ウエタ・ニシモリ（西森 明美）氏の功績

同人はマリンガ文化体育協会の文化部長として、約30年に亘り日本舞踊を中心とした日本文化の伝承・普及に尽力されています。2006年以降、ブラジル歌謡協会会長として、日本歌謡の伝承・普及に尽力されている。配偶者は西森ブラジル連邦下院議員であり、同議員を公私の面で補佐し、日伯関係緊密化に資する幅広い活動に貢献されています。

2 サチオ・カユカワ（粥川 幸男）氏の功績

同人は約30年に亘りアプカラナ市の市議会議長を含む市議会議員を務め、2003年には6月18日を日本移民の日と記念日に制定する条例を提出・可決させ、日伯間の相互理解に貢献されました。また約8年間に亘りアプカラナ文化体育協会会長として同地域の日本文化の継承・普及に尽力されました。特に1992年に同氏の発案により開催された「桜祭り」はブラジル各地から観光客が訪れ、約3万人の集客を誇るまでのイベントになり、日伯相互理解の増進に寄与しています。

3 三都主 アレサンドロ（三都主 アレックス）氏の功績

同人は16歳でサッカー留学生として日本に渡航し、その後プロサッカー選手として活躍。2002年、2006年のワールドカップでは日本代表選手として出場しました。選手として18年間の経験を積み、ブラジルへ帰国してからは、サッカーを通じて子どもや青年が育つサポートをする「Instituto Alex Santos」を設立し、サッカーの技術だけを教えるだけではなく、日本で学んだ礼儀や敬意を伝えることも重視し、日伯両国の相互理解に貢献されています。



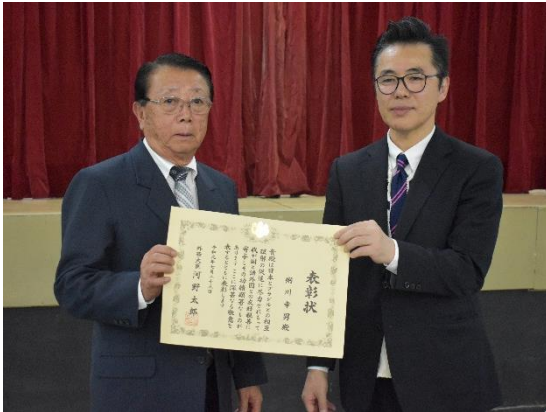
Consulado Geral do Japão
em Curitiba



受章者と木村総領事



アケミ・ニシモリ氏



サチオ・カユカワ氏



三都主 アレックス氏



表彰式では、受章者にまつわる日伯両国の友好関係を示す結びつきを紐解くエピソードが紹介されました。木村総領事は永年にわたる貢献に感謝を述べた上で、今後、日伯両国民の間における友好関係及び連携・交流が益々活発になることを望むと述べました。

本件照会先：在クリチバ日本国総領事館 阿部，クボミ職員
電話：(41)3322-4919>2番（その他） メール：k-abe@c1.mofa.go.jp